

## 開かれた生涯教育を目指す自然史標本館

東北大学理学部岩石鉱物鉱床学教室 藤 巻 宏 和

東北大学自然史標本館は、仙台市青葉区青葉山理学部キャンパスに設立され、平成7年10月2日に開館いたしました。理学部が標本館の設立を目指して20年の間、多くの関係者の努力の結果ようやく完成いたしました。近年生涯教育や社会人教育などが話題になり、大学が社会に対して果たすべき役割も大きく変わってきています。当教室も新しい標本館を中心にして、社会への貢献をすべく第1歩を踏み出したところです。このような折りに、貴誌に東北大学理学部自然史標本館の紹介をさせていただくことになりまして、たいへんありがとうございます。

本標本館は仙台市営バスの理学部前バス停留所のすぐ脇にあり、円形の展示室と長方形の管理・収蔵室からなっています（写真1）。



写真1 東側から見た東北大学理学部自然史標本館。円形の部分が展示室、長方形の部分が収蔵庫。

展示室は2階建て、管理・収蔵室は4階建

てになっておりユニークな外観をしています。入口は本館の南側で、円形の展示室と収蔵室の間にあります（写真2）。

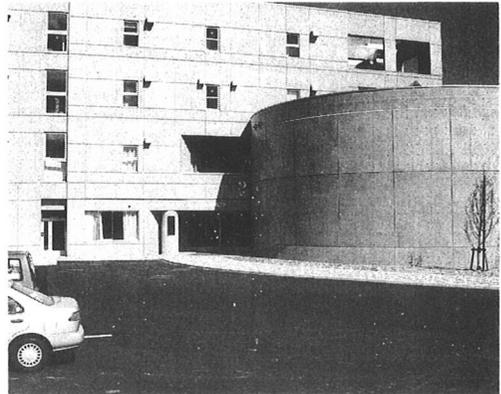
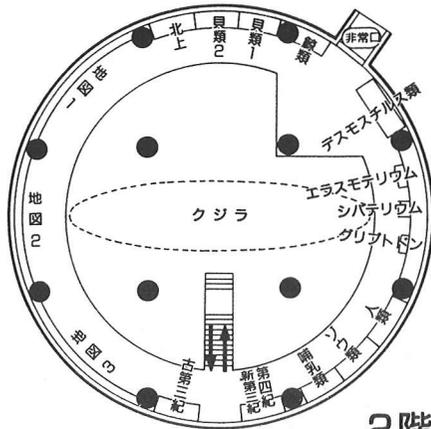


写真2 南側からみた標本館。円形の部分と長方形の部分の間が入口。手前は来館者用駐車場。

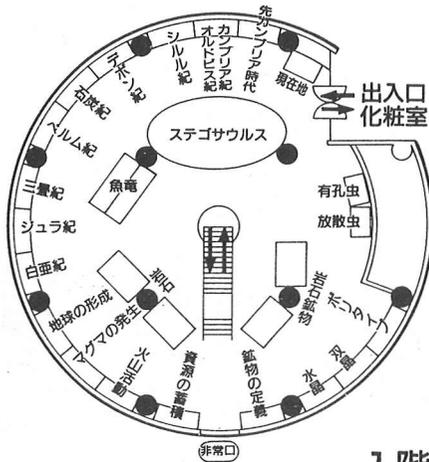
円形の展示室は直径20メートルほどの大きさで、吹き抜けになっており、ほぼ中央から2階に上がる階段があります。標本館全体としての広さはおおよそ1,750平米です。

展示室の2階は円形のギャラリーで壁に沿って貴重な品々が展示されています。1階の半分は地質学・古生物学関連の展示品、半分は岩石・鉱物・鉱床学関連の展示品が置かれ、2階は古生物学関係が半分、地理学関係の資料が半分を占めています（図）。管理・収蔵には展示しきれない貴重な資料が保存されていますが、将来は特別展示会を開催することになっています。

展示室に入りますと、まず目の前に白亜紀のアメリカ産恐竜ステゴザウルスの化石のレプリカが展示されています（写真3）。



2階



1階

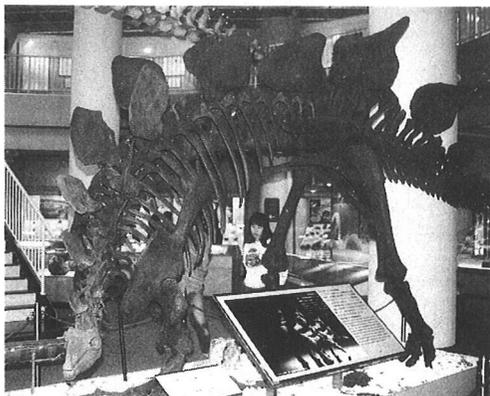


写真3 ステゴザウルスのレプリカ骨格標本  
また、吹き抜けの天井から巨大な鯨の骨格標本がぶら下がっているのが目に付きます。これは現在生きているいわし鯨の骨格標本です(写真4)。

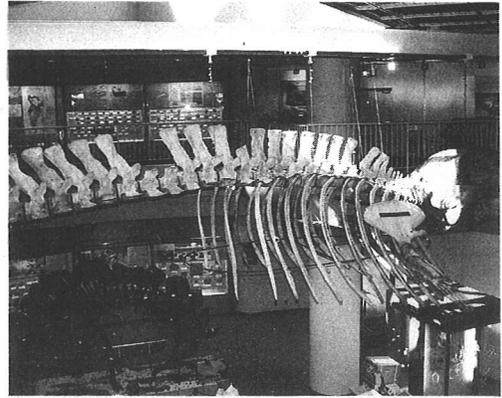


写真4 現世のいわし鯨骨格標本

その先には北上山地の歌津とドイツ産の魚竜の化石が展示されています。写真5は有名な歌津魚竜の化石です。

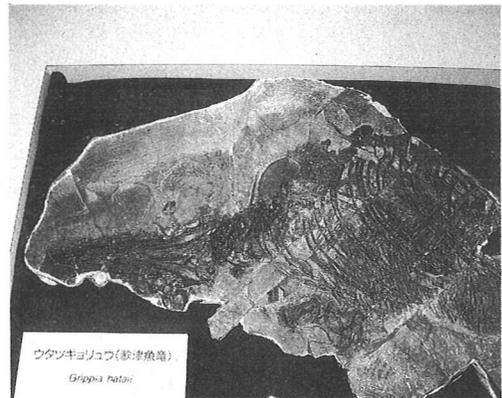


写真5 北上山地、歌津魚竜化石

壁に沿って先カンブリア時代をはじめカンブリア紀から白亜紀までの、各時代の貴重な化石や岩石などが展示され、時代ごとに景色や生物のイラストが飾ってあります。また生物の進化・絶滅などの説明もされています。各時代を特徴づける化石がほとんどそろっており、なかでもオーストラリアで見つけられた先カンブリア時代のエディアカラ動物群の化石は、日本では本標本館にしかありません。またアンモナイトの標本は特に豊富で、大変大きな標本がたくさんあり(写真6)。

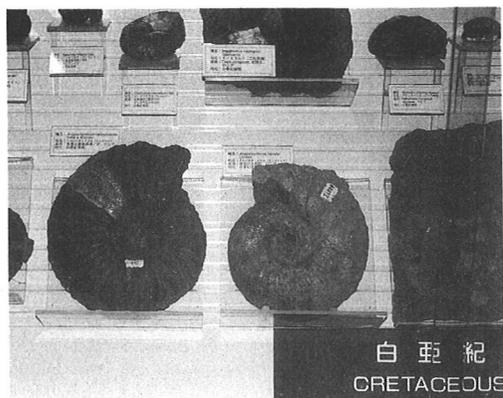


写真6 白亜紀の化石群。世界中から収集されたアンモナイト化石。

一部の大きなアンモナイト標本はケースから出して、入口ロビーに置いてあり、手に触れて見ることができます（写真7）。

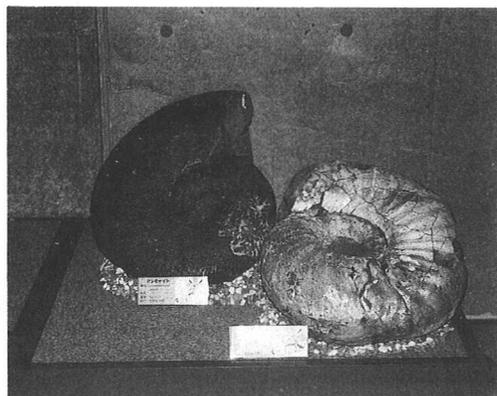


写真7 入口ロビーに展示されているアンモナイト化石。手で触れてみるができます。

進化の歴史のなかで登場してきた様々なサンゴや有孔虫、貝類、脊椎動物など、たくさんの資料が集められている化石は、1階と2階にグループ毎に展示してあり、進化の過程が見られるようになっています。またこれまでに詳しい研究がなされている北上山地については、単独のコーナーがもうけられています。1階には顕微鏡の置いてあるコーナーがあり、小さな化石などを拡大してテレビに映して見ることもできます。

岩石や鉱物・鉱床学関連の貴重な資料も

充実しています。これらは地球の形成やマグマの発生・分化、火山活動、資源の蓄積、鉱物の定義、水晶、双晶、ポリタイプという8つのコーナーに分けて、テーマ毎に展示と説明がなされています。

地球の形成では、地球がどのようにできてきたかをわかりやすくイラストで説明し、各種の隕石や隕鉄をはじめ（写真8）、

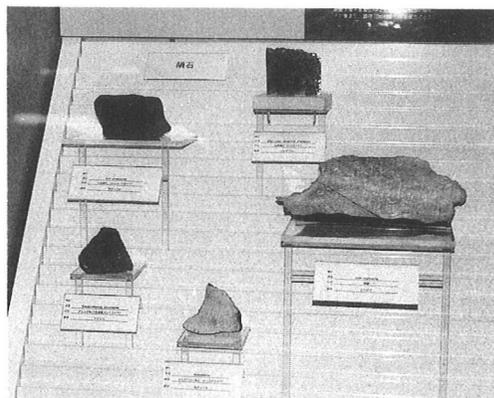


写真8 地球の形成のコーナーにある隕石・隕鉄・石鉄隕石標本。炭素質隕石のアレンデ隕石も展示されている。

地球のマントルを構成している岩石などが展示されています。マグマの発生・分化と火山活動のコーナーでは、地球が進化し続けていること、この進化と火山活動がどのような関係にあるかなどの説明を交えて、様々な岩石を展示しています。地殻深部を構成していた岩石もここに展示されています。資源の蓄積のコーナーでは元素の移動・濃集などの機構を説明するイラストと、各種有用元素を含んだ岩石鉱物が展示されています。ここには既に閉山となってしまった日本国内の鉱山から集められた貴重な鉱石鉱物が多数展示されています（写真9）。

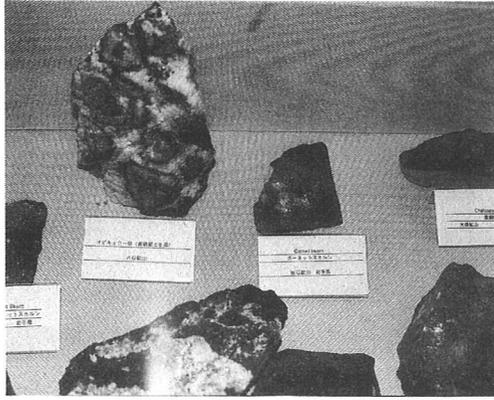


写真9 日本国内の鉱山から集められた鉱石標本。これらの鉱山はすべて閉山となっている。

また最近話題になっております、海洋底のチムニーの実物が輪切りにして展示してあります(写真10)。

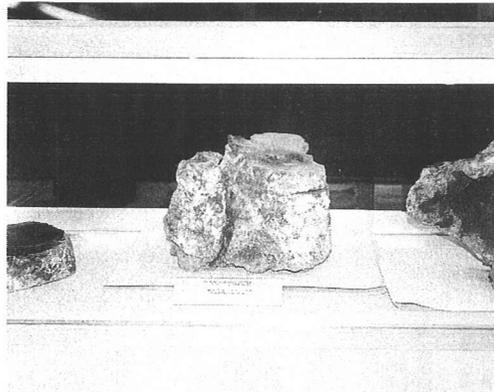


写真10 メキシコ沖の東太平洋海嶺から採取された煙突状(チムニー)の硫化鉱石。

鉱物のコーナーは広い面積を占め、特に水晶の様々な形態が紹介されています。特に山梨県で採られた日本式双晶と呼ばれる、ハート型の水晶はよく知られています。また同じ化学組成の鉱物が条件によっては、異なる外観をもつという例もたくさん紹介されています。

本標本館には、教室創設以来80年にわたって収集された、およそ世界中の岩石があるといってもよいほどの岩石・鉱物が収

蔵されています。とくに神津教授の購入・収集したドイツのクランツ標本は貴重なものです。これらの多くは専門的すぎるくらいありますが、そのクランツ標本からいくつかの岩石と鉱物を選び、他の標本を加えて階段を挟むように展示してあります。

2階の地図のコーナーには14枚の貴重な地形図が展示されています。これらの地形図は、かつて日本軍が不幸にして軍事的な目的のためにアジア太平洋地域で作成したものです。現在では学術研究の資料となっています。

尚、今後1年に何回かの企画展を行うと共に、本標本館を利用して研究室公開授業などを行い、地学だけではなく理科全般に対して親しみを持っていただくよう努めてまいります。また開館中は専門的なご質問にお答えできる専門のスタッフが常駐しております。館長は地質・古生物学教室の森啓教授が兼任しております。

所在地/仙台市青葉区荒巻字青葉

電話/022-217-6767 FAX兼用

開館時間/午前10時より午後4

休館日/月曜日(月曜日が祝祭日の時はその翌日)、12月28日から1月4日

入館料/大人100円、小中学生50円、20人以上の団体は20%割引あり

駐車場/無料